

令和5年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
 (I 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)
 事業内容報告書の概要

地方公共団体名【 仙台市 】
令和5年度に実施した取組の内容及び成果と課題
1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等) ○地域日本語教育の体制整備事業総合調整会議(年2回 6月, 2月開催) 公益財団法人仙台観光国際協会(SenTIA)運営 構成員・・・仙台市交流企画課, 仙台市教育指導課, 宮城県国際化協会, アイカス国際都市仙台を支える市民の会, 仙台観光国際協会, 仙台国際日本語学校, 外国人の子ども・サポートの会, 外国につながる子どもサポートせんだい, 日本国際協力センター, 日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイダンス宮城, 東北大学大学院, 宮城教育大学, Yurt 東北日本語教師協働会 ○日本語指導担当者研修会(年2回) 構成員:教育委員会指導主事, 日本語指導担当教員, 日本語指導担当講師, 日本語指導担当非常勤講師, 日本語指導が必要な児童生徒在籍学級担任や当該児童生徒に関わる教員等, 帰国・外国人児童生徒等指導協力者 4月:担当指導主事による講話, 講師を招いての講話, 情報交換会 9月:講師を招いての講話, 情報交換会
2. 具体の取組内容 (1) 地域の外国人児童生徒等指導体制の推進に係る運営協議会・連絡協議会の設置・運営 ・地域日本語教育の体制整備事業総合調整会議(年2回 6月, 2月開催)公益財団法人仙台観光国際協会(SenTIA)運営 ・日本語指導担当者研修会(年2回) (2) 学校における指導体制の構築 ・外国につながるのある児童生徒に関する調査(年3回) ・仙台観光国際協会(SenTIA)のコーディネーター派遣による指導体制の充実 (3) 「特別の教育課程」による日本語指導の実施 ・「特別の教育課程」の編成・実施を含めた日本語指導についての研修 (4) 成果の普及 ・連絡協議会や各種研修会等での取組事例の発表 ・市や仙台観光国際協会のHP, 校務支援システム等を活用した情報発信 (6) 小学校入学前の幼児や保護者を対象としたプレスクール ・帰国・外国人児童等と家族のための小学校入学準備講座(SenTIA主催)への参加 (7) ICTを活用した教育・支援 ・小中学校の日本語指導が必要な児童生徒に対して, 学校からの要請に応じて自動翻訳機の貸し出し (10) 日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣 ・学校からの要請に応じて, 日本語指導または母語による支援ができる指導協力者の派遣
3. 成果と課題 成果:○ 課題及び今後の展望:● (1) 地域の外国人児童生徒等指導体制の推進に係る運営協議会・連絡協議会の設置・運営 ○本取組を行って得られた成果 ・仙台市の帰国・外国人児童生徒等の現状と課題を関係者が把握できた。 ・帰国・外国人児童生徒等の教育体制の充実に向け, 検討することができた。 ・取組事例の共有を図ることができた。 ・情報共有による横の繋がりを構築することができた。 ●本取組を行ったところ判明した課題及び今後の展望 ・情報を必要としている方々に情報が届く体制を構築する必要がある。 ・帰国・外国人児童生徒等の教育に係る教員の育成が必要である。

(2) 学校における指導体制の構築

○本取組を行って得られた成果

- ・各校の在籍や支援状況を把握した上で、必要な支援につなげることができた。
- ・専門家からのアドバイスを受け、各学校において日本語指導体制の充実を図ることができた。
- ・帰国・外国人児童生徒等を受け入れたことがない学校において、円滑な受入体制を構築することができた。

●本取組を行ったところ判明した課題及び今後の展望

- ・帰国・外国人児童生徒等の増加に伴い、支援を必要とする学校も増加しているため、学校や児童生徒の実態に応じた支援が必要である。
- ・学校の受け入れ体制の違いによる日本語指導や支援に差がでないよう、対策が必要である。

(3) 「特別の教育課程」による日本語指導の実施

○本取組を行って得られた成果

- ・研修に参加した教員が「特別の教育課程」の編成・実施についての方法を身に付け、取り出し指導等の充実を図ることができた。
- ・研修を実施することで各学校の取組事例の共有を図ることができた。

●本取組を行ったところ判明した課題及び今後の展望

- ・「特別の教育課程」の編成・実施の方法等をより多くの教員で共有していく必要がある。

(4) 成果の普及

○本取組を行って得られた成果

- ・市や連携団体で実施している帰国・外国人児童生徒等への対応について、多様な方法で情報発信することで、学校関係者に限らず広く市民に知らせることができた。

●本取組を行ったところ判明した課題及び今後の展望

- ・情報を必要としている方々に情報が届く体制を構築する必要がある。

(6) 小学校入学前の幼児や保護者を対象としたプレスクール

○本取組を行って得られた成果

- ・小学校に入学予定の帰国・外国人児童等の保護者を対象に、市教育委員会で実施している帰国・外国人児童生徒等への支援等について、情報発信することができた。

●本取組を行ったところ判明した課題及び今後の展望

- ・市教育委員会で実施している帰国・外国人児童生徒等への支援等について周知できるよう、より多くの方に講座に参加いただく必要がある。

(7) ICTを活用した教育・支援

○本取組を行って得られた成果

- ・自動翻訳機を活用することにより、母語での意思疎通も可能となり、児童生徒が安心して学校生活を過ごす一助となった。
- ・保護者との面談等で言語による負担の軽減を図ることができた。

●本取組を行ったところ判明した課題及び今後の展望

- ・学校の実情やニーズに応じていくために、予算の確保や貸出方法等について、検討が必要である。

(10) 日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣

○本取組を行って得られた成果

- ・指導協力者の支援により指導体制の充実が図られ、対象の児童生徒の学習や生活における不安感の解消につながった。

●本取組を行ったところ判明した課題及び今後の展望

- ・対象の児童生徒の増加に伴い、人員の確保と派遣回数を増やすための予算の確保が必要である。

	幼稚園等	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
本事業で対応した幼児・児童生徒数	人 (園)	59 人 (30校)	16 人 (13校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)
うち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒数		12 人 (3校)	0 人 (0校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)

4. その他(今後の取組予定等)

- ・関係機関と更に連携を図りながら、日本語指導について支援体制の充実を図る。